

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 未知事物検索・認識基盤によるメディア消費者の体験・行動センシング

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

佐藤 真一（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 教授）

主たる共同研究者

相澤 清晴（東京大学大学院情報理工学系研究科 教授）

山崎 俊彦（東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授）

3. 事後評価結果

○評点：

A 期待通りの成果が得られている
------------------

○総合評価コメント：

未知事物検索・認識基盤という基本構想の下で、メディア消費者の体験や行動をセンシングしトレンド検出や行動変容を起こす仕組みを創出するため、放送映像・SNS・ライフログ等のメディアから、顕著な変化やトレンド等の未知事物を検索・認識する技術群を開発した。

基礎技術として、100万画像という大規模データベース上での物体検出の実現、ラベルに誤りを含むデータセットを誤りラベルを修正しながら学習最適化を進める技術、学習データの少なさを補うための転移学習技術の開発などを行うだけでなく、SNSの閲覧数や人気度を向上させるハッシュタグを推薦する技術「FP-Rank」を開発しいくつかのライセンス提供に至るなど、産業応用上インパクトのある研究開発も行っている。これらの成果はいずれもトップ会議に採択されており特筆に値する。本研究グループが特定の応用分野で外部機関・企業と連携するのではなく、個々の解析技術、並びに関連性解析技術に注力したことについて成果が出たことを評価する一方で、願わくば、基本構想の下で社会問題の解決や産業構造を変革する取り組みが欲しかった。

今後は、スモールフェーズ期間内で素晴らしい技術成果が個々に出せているこの研究グループの力を結集してイノベーション創出と言うべき課題解決に向けて方向性が出ることに期待したい。